

## 会費の納入について財務部からのお知らせ

今年度の会費納入はお済でしょうか。まだ納入されていない方は下記までお振込みをお願い致します。  
なお、2年間未納の場合は退会となりますのでご注意ください。

振込先：伊予銀行 川内支店（普通）1180659  
口座名：愛媛県言語聴覚士会 代表者名：林田聡（はやしだあきら）  
年会費：5,000 円 ※新入会員は入会金 2,000 円も合わせてご入金ください。

- ◆ 引越し・異動等により、届出事項に変更があった場合は、変更届の提出が必要です。
- ◆ 休会、退会にも届出が必要です。
- ◆ ホームページ <http://st-ehime.org/> から各種変更手続きの用紙を印刷し、記入の上、事務局まで F A X または郵送をお願いいたします。

## 届出事項について事務局からのお知らせ

- ◆ 引越し・異動等により、届出事項に変更があった場合は、変更届の提出が必要です。
- ◆ 休会、退会にも届出が必要です。
- ◆ ホームページ <http://st-ehime.org/> から各種変更手続きの用紙を印刷し、記入の上、事務局まで F A X または郵送をお願いいたします。

県士会HPでは研修会や勉強会のお知らせなどを随時更新しています！



### 令和元年度第3回理事会

日時：令和元年8月21日（水） 19:00～

場所：南高井病院 参加人数：14名

議長：林田聡 書記：事務局

#### ◆活動報告

会議出席など：令和元年度春期都道府県士会会長会議、日本言語聴覚学会懇親会・シンポジウム登壇、一般社団法人化記念祝賀会  
会場視察、伊予松前町介護予防事業打合せ、四国言語聴覚学会懇親会・シンポジウム登壇、講師派遣、名義後援依頼、各部からの報告

#### ◆議題

報告・検討事項：言語聴覚の日事業について、松山市難病患者相談会講師依頼について、一般社団法人化準備について、DVD研修について、理事メール移行について、懇親会費用について、各部からの払い出しについて、県士会メールのアドレス整理について、次回の広報誌発行について、ホームページのお問合せメールについて、令和元年度言語聴覚の日について、意思疎通支援者養成事業のST受講の可否について、名誉会員制度について、グループ活動制度の依頼方法について

#### ◆予定

次回理事会 10月17日（木） 松山リハビリテーション病院

### 令和元年度第4回理事会

日時：令和元年10月17日（木） 19:30～

場所：松山リハビリテーション病院 参加人数：16名

議長：林田聡 書記：事務局

#### ◆活動報告

会議出席など：えひめ福祉用具フェア開会式、野中経営との話し合い、四国作業療法士会30周年記念式典、身体障害者リハビリテーション研究会、第23回「口から食べたい」講演会、講師派遣、各部からの報告

#### ◆議題

報告・検討事項：一般社団法人化準備について、小野久米地区地域包括支援センターからの依頼について、来年度のDVD研修について、県士会メールの現状報告と今後の運用方法について、入会申込書の一部変更案について、台風災害募金等の払い出しについて、学術集会一般演題について、来年度の教育講演・新人教育開催時期について

#### ◆予定

次回理事会 12月18日（木） 南高井病院

□■編集後記■□

新しく歴史を築いたラグビー日本代表！  
何か忘れていたものを感じさせてもらった気がします。  
本当にありがとうございました！

# ONE TEAM

当士会も！？

## 愛媛県言語聴覚士会

事務局：松山リハビリテーション病院

言語療法科内

住所：松山市高井町1211番地

TEL: 089-975-7431

FAX: 089-975-1670

URL: <http://st-ehime.org/>

広報誌編集：広報・渉外部



愛媛ST

検索

## 愛媛 S T ニュース



## 言語聴覚の日（令和元年9月8日）

今年は言語聴覚の日の関連行事として、西条市地域創生センターにて一般市民を対象に講演会を開催しました。「加齢性難聴と補聴器」というテーマで愛媛大学耳鼻咽喉科、寺岡正人先生をお招きして、講演いただきました。難聴が認知症の危険因子のひとつに加わったことから関心は高まりをみせているようで医療福祉関係者の参加もみられました。



講演では耳の構造やきこえの仕組み、難聴の種類などの基本的な事から、難聴と認知症の関係や難聴の予防、補聴器についてまで、丁寧にお話いただき一般の方々にも理解しやすいお話でした。（難聴の予防には大きな音から耳を守ること、動脈硬化を起こさない生活習慣が大事であるとのことでした。また補聴器装用のための心得3か条には①耳鼻科を受診すること②補聴器をリハビリの道具ととらえること③試聴することが挙げられていました）

医療福祉関係者にとっても、我々STにとっても、聴覚領域の話を知ることができたことは有益であり、参加者みなにとって有意義な時間を過ごせたのではないかと思います。

会場内には補聴器メーカー（えひめ補聴器センター）さんにもご協力いただき、展示ブースを設け、補聴器の模型展示や補聴器体験などを行いました。展示ブースでは、メーカーの方の話を熱心に聴く来場者の姿や言語聴覚士の姿がありました。メーカーの方からも「地域の住民の方や言語聴覚士の方と話す機会が持てたことをうれしく思う」との感想もいただきました。

また、言語聴覚士の仕事を紹介したパネル展示も行いました。言語聴覚士とはどのような仕事か、どのような方々に関わる仕事なのかを来場していただいた方々に知っていただけたのではないかと思います。

講演後も展示ブースには人が絶えず、また寺岡先生に個別の質問をされている方もおられました。

今後もっと多くの方に言語聴覚士のことを知っていただくため啓蒙活動は継続が必要であることを実感しました。

済生会西条病院 天草左和子



## 四国学会（令和元年7月28日）

7月28日に香川県の国分寺ホールで開かれた四国学会に参加させていただきました。

一般演題では貴重な発表の機会をいただきました。座長の先生やフロアの方々からご指導いただいたことや、他県の発表者ともディスカッションでき、より学びを深めることができました。

シンポジウムのトピックスは、災害リハビリテーションでした。四国各県の予防活動や災害時の支援方法等を聞くことができました。何十年に一度という大災害が日本各地で毎年引き起こされる昨今、個人レベルでも、医療者としても、対応待ったなしのテーマであると感じました。

特別講演は、「摂食嚥下リハビリテーションにおける機能訓練 update」というテーマで、広島国際大学の福岡達之先生がお話されました。筋肉トレーニングの基礎から舌、喉頭挙上、呼吸、果ては電気刺激によるトレーニング方法やそれぞれのトレーニング効果まで、国内外における新しい文献報告を交えて、ご教授くださいました。

準備された香川県士会の方々の情熱も感じられ、また、盛りだくさんの内容で刺激的な1日をすごすことができました。

愛媛県立中央病院 鈴木万葉

## 中予地区公開講座（令和元年9月8日）

令和元年9月8日（日）に松山市総合福祉センターにて中予地区公開講座を開催しました。今回は『コミュニケーション障がいへの対応について～失語症の方との関わり方～』と題し講演を行いました。



### ①「コミュニケーション障がいとその対応」

講師：木山 幸子先生（ことばと脳の相談室 言語聴覚士）

### ②「失語症の方との関わり方について」

講師：清家 寧子先生（特別養護老人ホームガリラヤ荘 言語聴覚士）

### <お知らせ>「失語症者向け意思疎通支援事業について」

失語・高次脳障害支援委員より（愛媛県立中央病院 三瀬 和人 言語聴覚士）

約40名の方にご参加いただき、リハビリ職、看護師、介護士、栄養士、ケアマネージャーなど医療・福祉関連の専門職の方々から一般の方までと幅広く、盛況のうちに終わることができました。更に今回は愛媛CATVの撮影も行われ、言語聴覚士のことを広く知っていただくきっかけになるのではないかと思います。

講演では失語症の症状についてわかりやすく教えていただき、退院後も見据え、人生を楽しむための支援の重要性を学びました。また、失語症の方との関わり方について、その基本姿勢や工夫を参加者同士の体験も交えながら、情報交換することができました。講師の先生方の共通した考え方として、コミュニケーションは訓練でははく、本来楽しいものであるということを心がけていく必要があるとのことでした。私自身、病態や訓練にのみ注意が向きがちであると反省したと同時に、先生方から学んだ基本姿勢を日々の実践の中で活かしていけるように研鑽していきたいと感じました。

今回、グループ活動制度を利用して奥島病院 森田亜耶先生、天山病院 今井香穂先生にお手伝いいただきました。お忙しい中ありがとうございました。

愛媛赤十字病院 中野洋一



## 失語症者向け意思疎通支援事業

### 《ニーズ調査の結果と今後について》

先日実施しましたニーズ調査についてまとめました。

失語症者ご本人は50～80歳代、ご家族は50～70歳代が多く、主な支援者は配偶者です。

ご本人、ご家族ともにほとんどの方が意思疎通に困っています。失語症発症後、外出や他者との交流は減少し、サロン等もほとんどの方が利用していません。ご家族の支援のみで充足されている方もいらっしゃいますが半数以上の方が意思疎通支援サービスの利用を希望されています。

失語症者への支援は専門的な知識や技術が必要であり、それを持たない支援者は疲弊しご本人も大きなストレスを感じておられます。早急な支援事業の開始が必要であると考えられます。しかし仮に事業が開始されたとしてもご本人自らが積極的にサービスを活用していこうという状況にはなりにくいのではとも考えられます。そこで支援サービスと当事者との間をつなぐためのSTの役割が重要になってくると考えています。

愛媛県での支援事業を開始また定着させて行くためにも私たちSTの力が必要です。今後も皆さまのご協力とご理解のほどよろしくお願いいたします。

失語・高次脳機能障がい支援委員会 デイケア暖だん 秋月将暢

## 防災便り

### 《カード型の避難所運営ゲームHUGを体験して》

HUGとは、避難者に年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所でおこる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲームです。

プレイヤーは、このゲームを通して避難者の属性を考慮しながら部屋割りを考え、また炊き出し場や仮設トイレの配置などの生活空間の確保、視察や取材対応といった出来事に対し自由に意見を述べ、話し合いながらゲーム感覚で避難所運営を学ぶことができます。

ゲームでは、考える間もなく次々と出来事を読み上げられるため、瞬時に判断が出来ないこともありましたが、皆で役割分担をしながらなんとか取り組むことができました。

避難所開設を体験する訓練を通して、災害に対する知識がない、また臨機応変に対応する主体性が必要等、沢山の気づきがありました。今後も災害の研修会などに参加することで、幅広い災害時の知識を身につけていく必要があると思いました。

西条中央病院 真鍋和美

